

# 2020年3月期第2四半期累計期間 決算説明会

1. 地域別市場環境と見通しについて
2. 決算の概要
3. 質疑応答

代表執行役 執行役社長兼CEO 平野 耕太郎

執行役専務兼CFO 桂山 哲夫

執行役営業本部長 先崎 正文

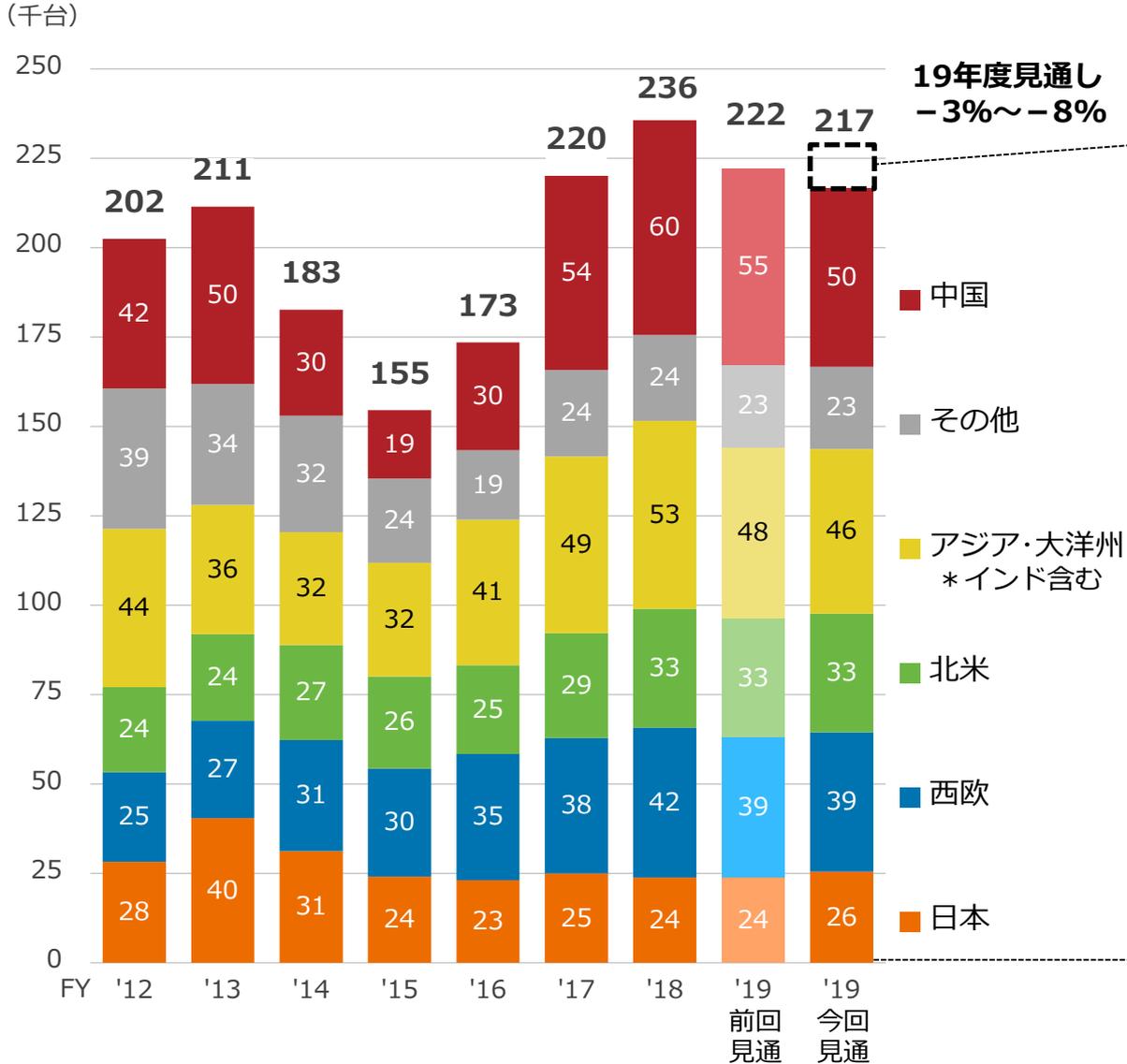
2019年10月28日

**このたびの台風19号によって、東日本の広範囲に風水害が発生し、  
大きな被害を受けた皆様にお見舞いを申し上げます。**

## 1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役 営業本部長

先崎 正文



※当社推定 中国国産メーカー含まず  
※複写・転用はご遠慮下さい

## 地域別需要対前年増減

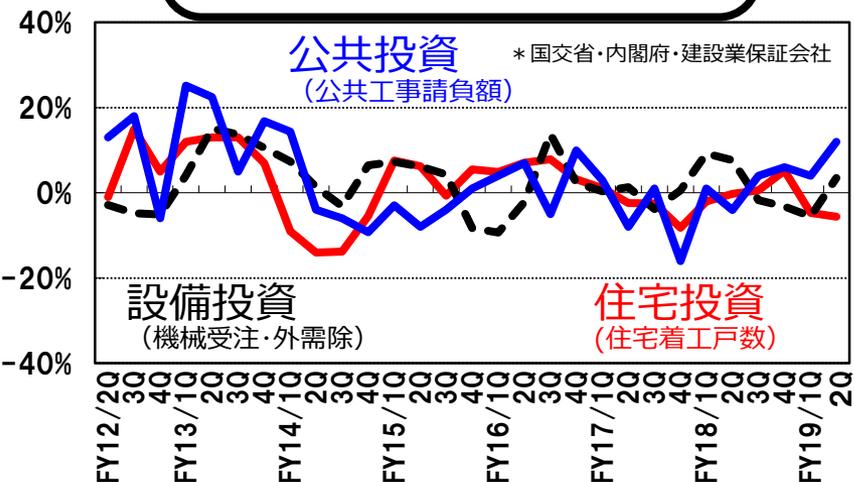
	'18	'19
合計	+7%	-8%
中国	+11%	-17%
ロシア・CIS	+31%	-13%
東欧		
アフリカ	-4%	+0%
中東	-45%	-2%
中南米	+5%	-5%
その他	-1%	-6%
インド	+14%	-11%
インドネシア	+13%	-18%
他	-3%	-9%
アジア・大洋州	+6%	-12%
北米	+13%	-0%
西欧	+11%	-7%
日本	-5%	+7%

## ■ 新興国比率：19年度 55% (対前年-3%)

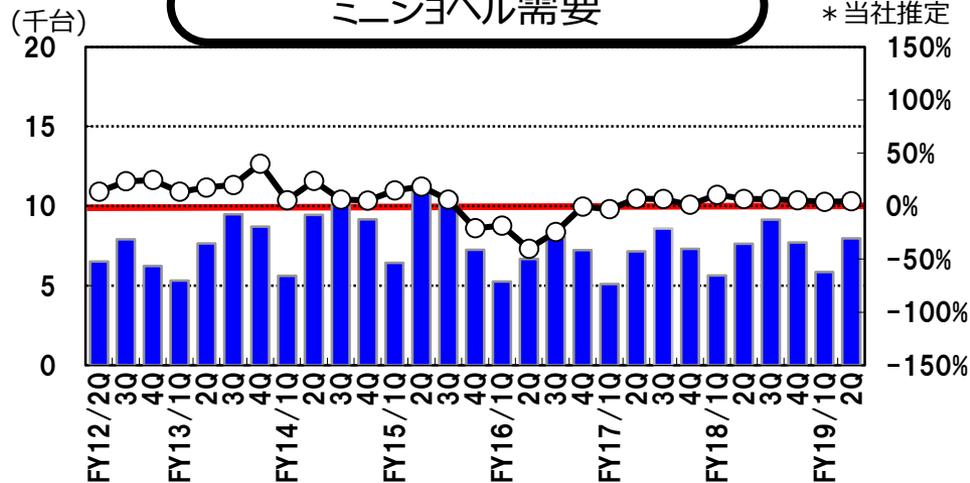
※新興国：中国、アジア・大洋州、その他

- 住宅投資は減少だが、公共投資は増加、設備投資は微増で底堅く推移した
- 油圧・ミニ・WL需要とも増加（対前年同期 油圧23%増、ミニ4%増、WL31%増）

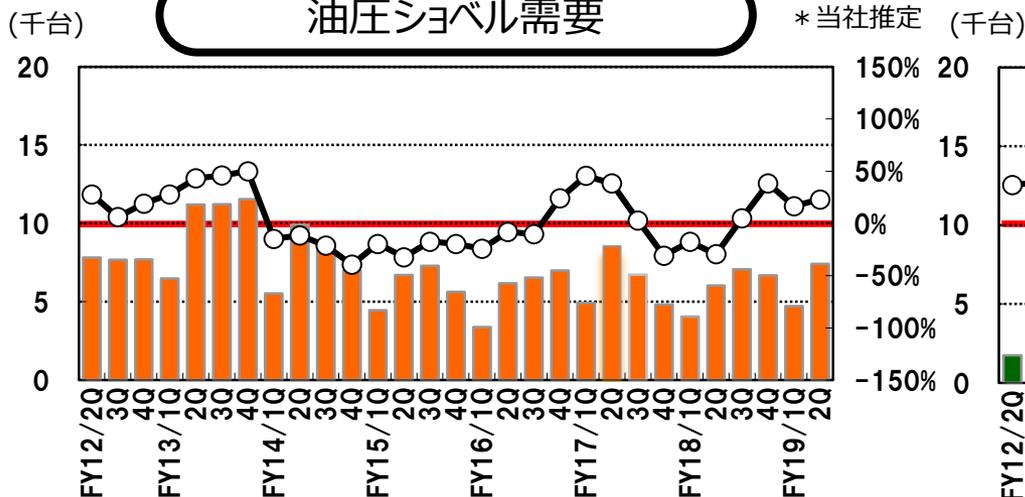
住宅・設備・公共投資（対前年同期）



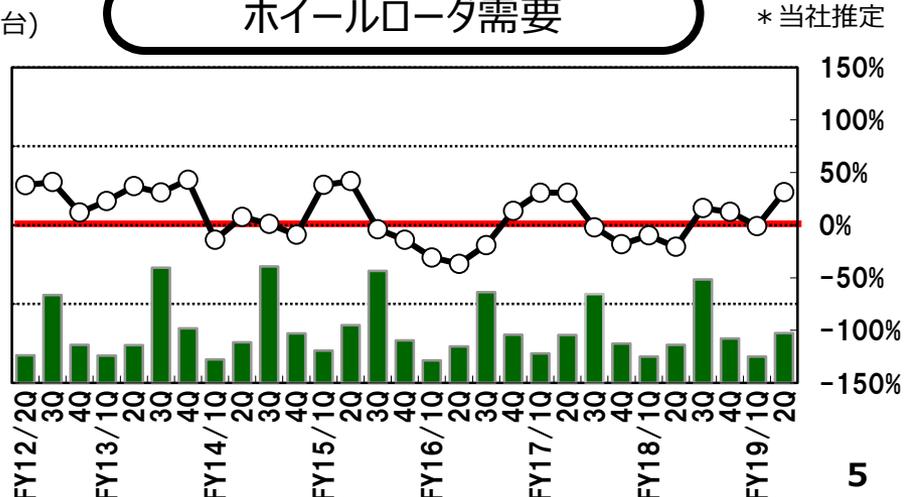
ミニショベル需要



油圧ショベル需要



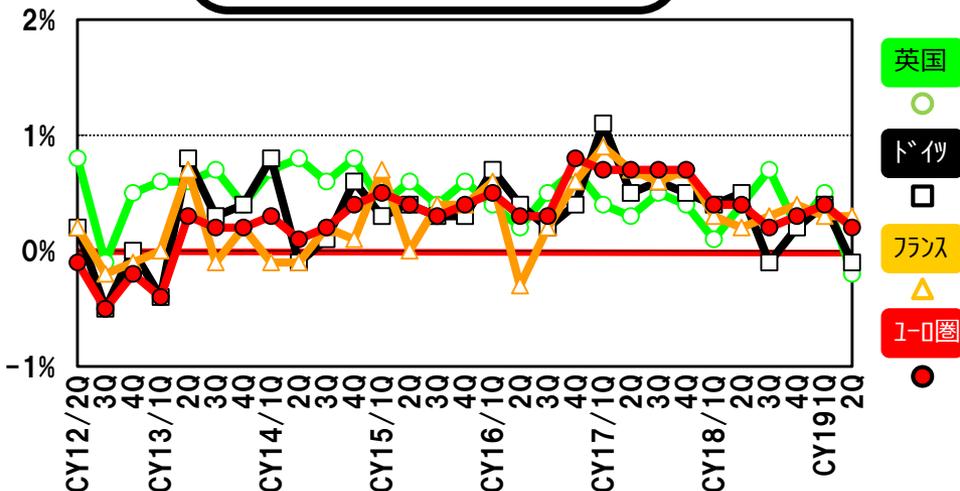
ホイールローダ需要



- ユーロ圏全体のGDP成長率は前期より微増であったが、英国・ドイツでは微減となった
- 油圧・WL需要は微減、ミニ需要は微増（対前年同期 油圧2%減、ミニ4%増、WL1%減）

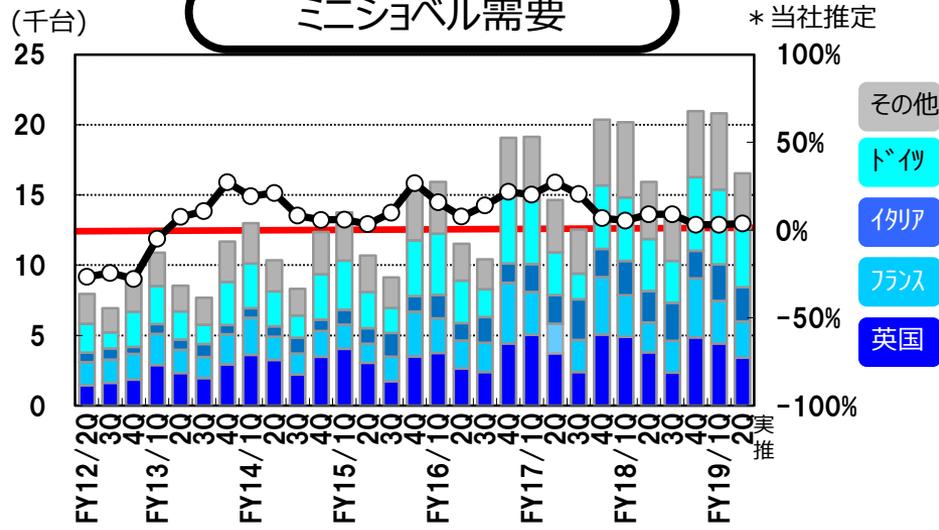
主要国GDP (対前期比)

\* Source: Eurostat



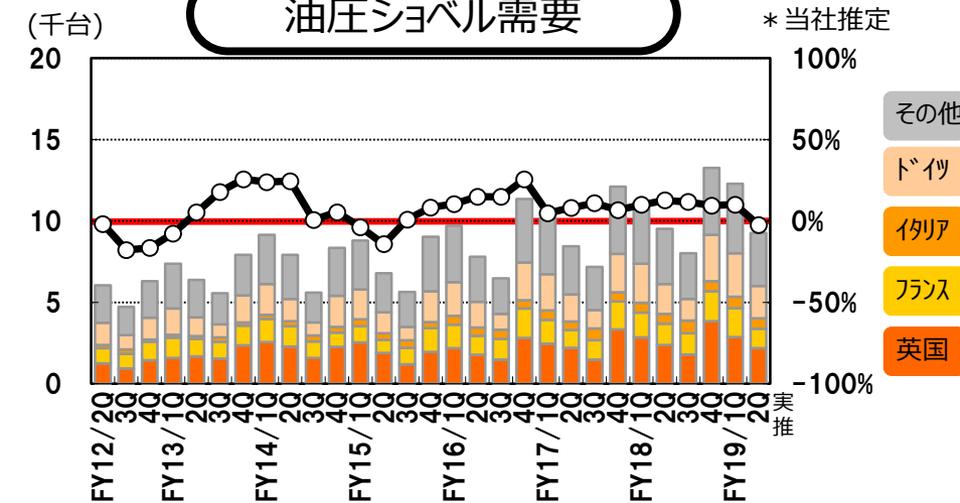
ミニショベル需要

\* 当社推定



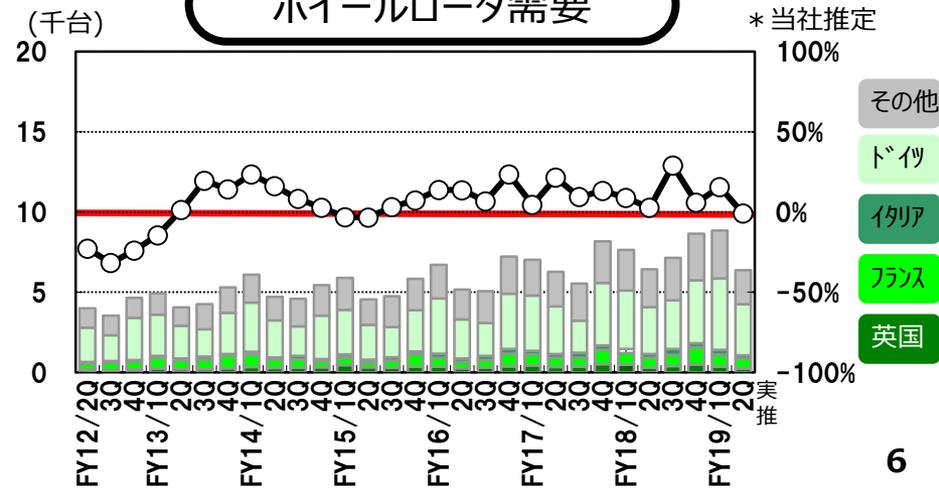
油圧ショベル需要

\* 当社推定



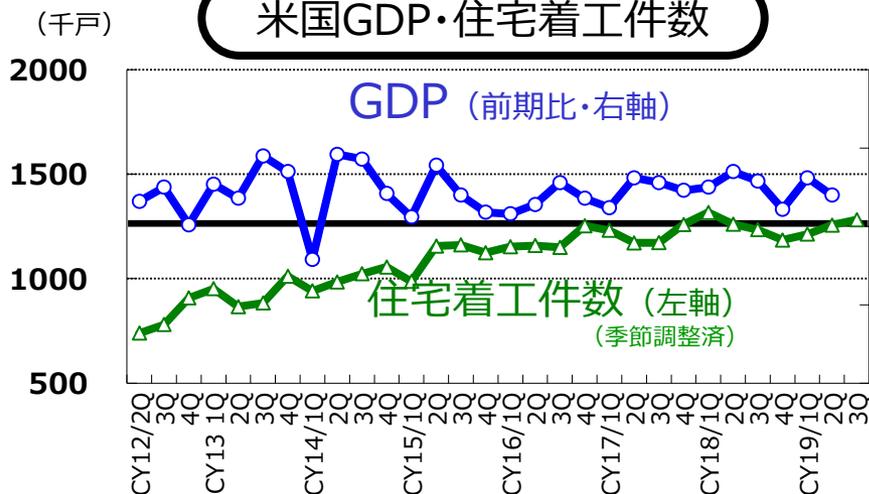
ホイールローダ需要

\* 当社推定



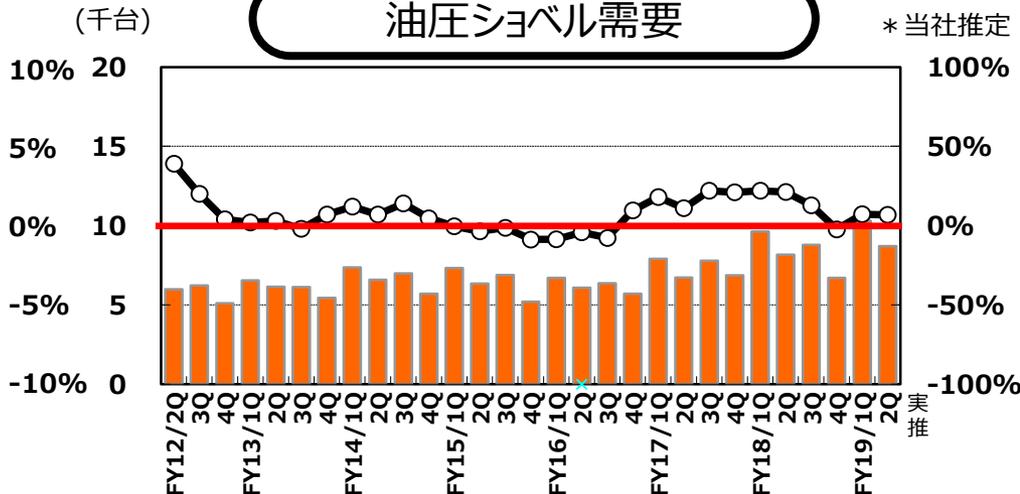
- 米国GDPや住宅着工件数は堅調に推移、建設投資は公共工事で増加継続も民間は減少
- 油圧需要は増加、ミニ需要は微増 (対前年同期 油圧+7%、ミニ+2%)

### 米国GDP・住宅着工件数

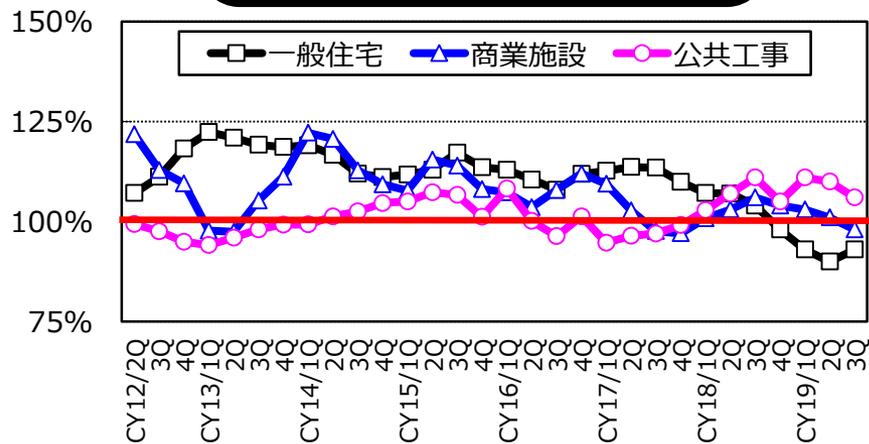


\* Bureau of Economic Census, US Census Bureau

### 油圧ショベル需要

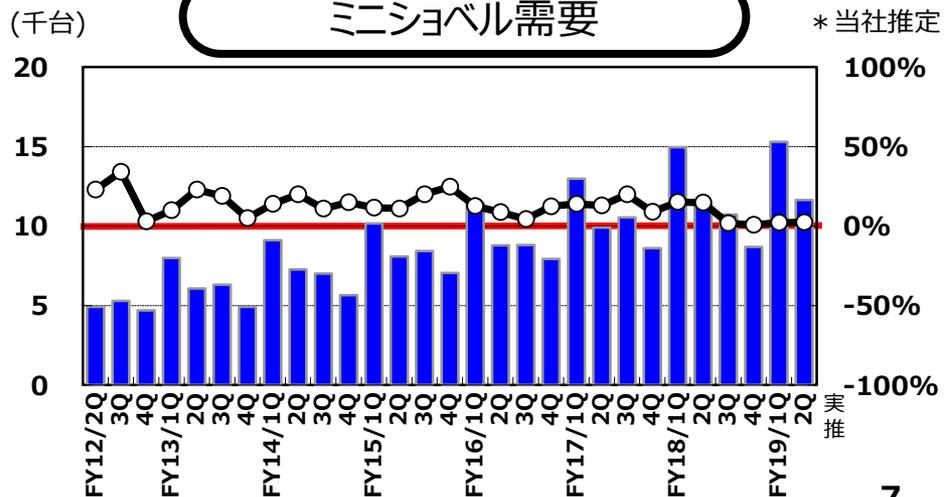


### 米国建設投資 (対前年同期)



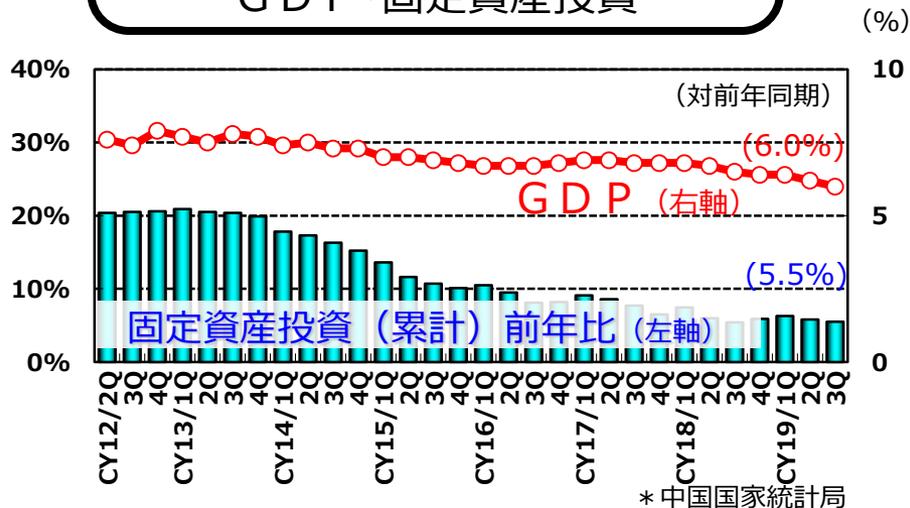
\* Bureau of Economic Census, US Census Bureau

### ミニショベル需要

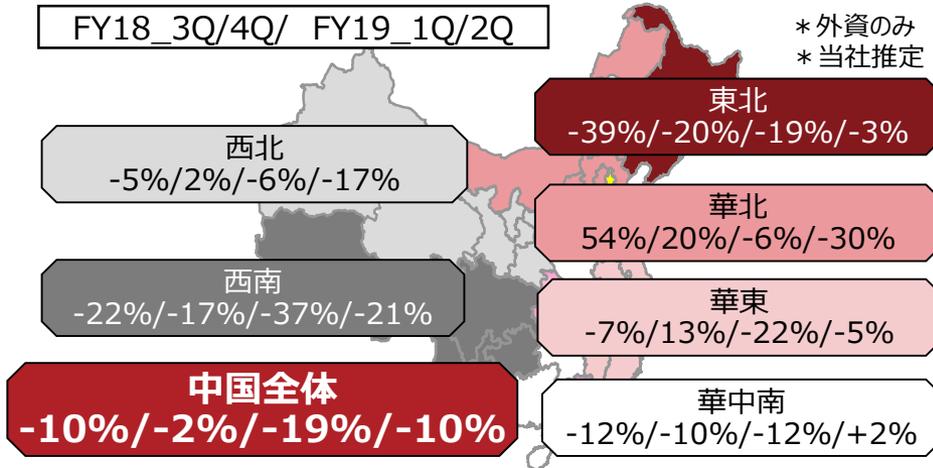


- GDP成長率は6.0%
- 油圧需要減 (対前年同期 10%減) ※外資のみ

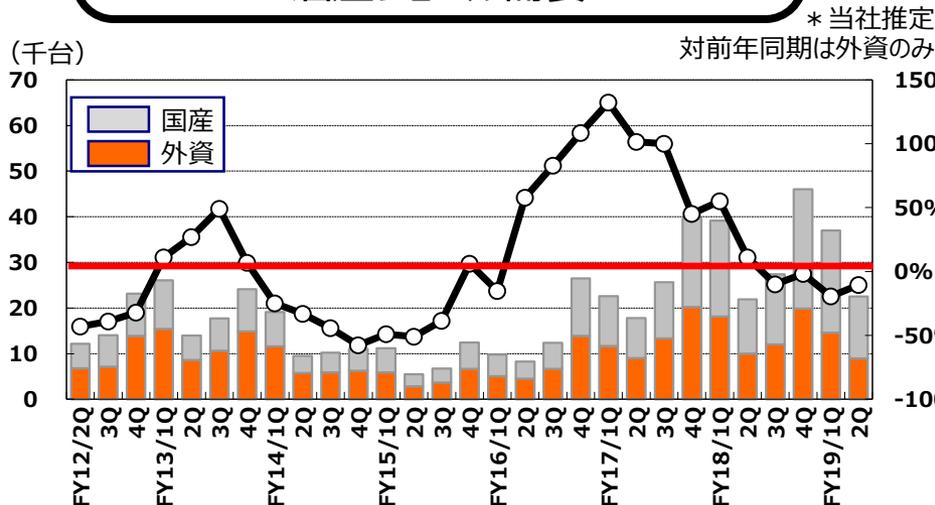
### GDP・固定資産投資



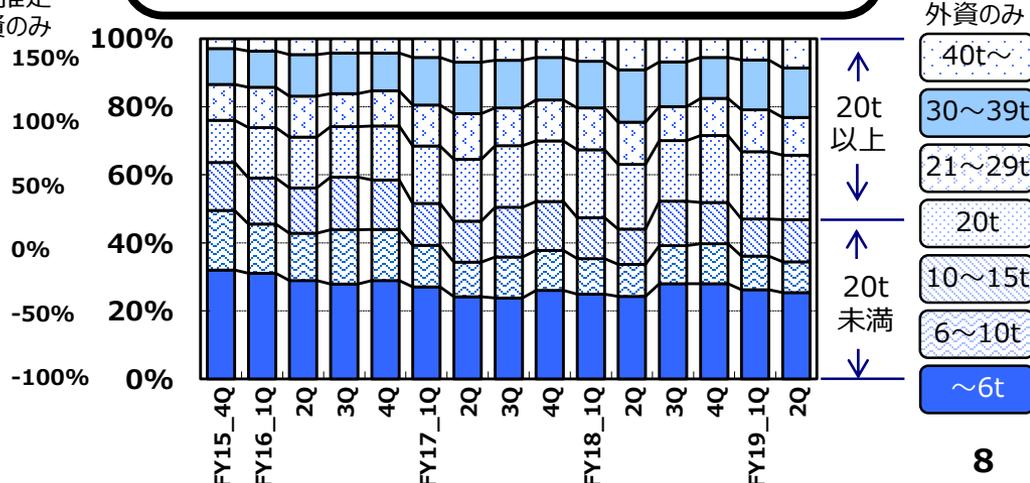
### 地域別油圧ショベル四半期別前年比

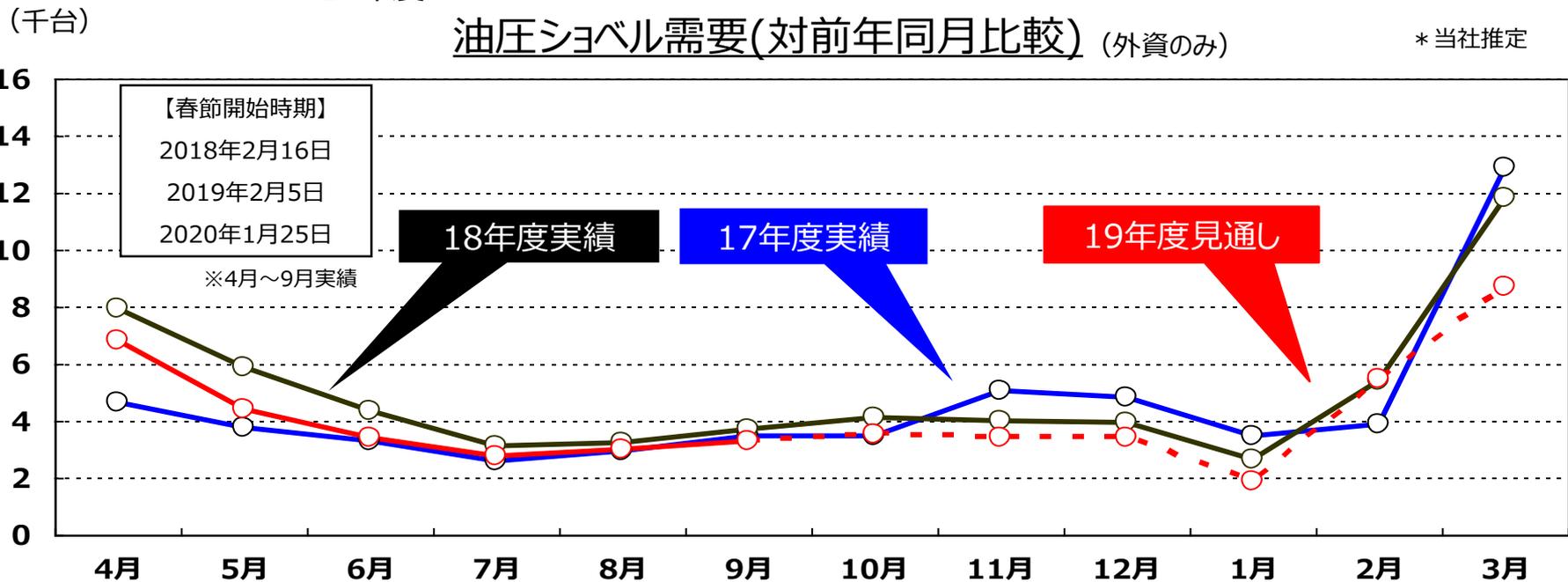
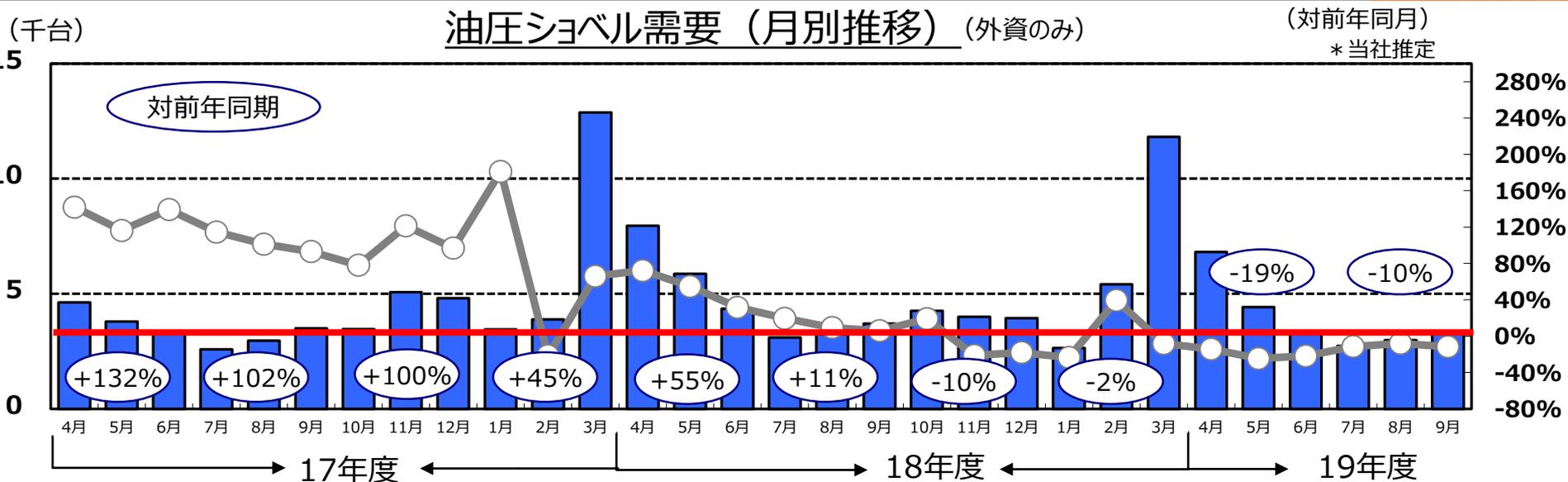


### 油圧ショベル需要



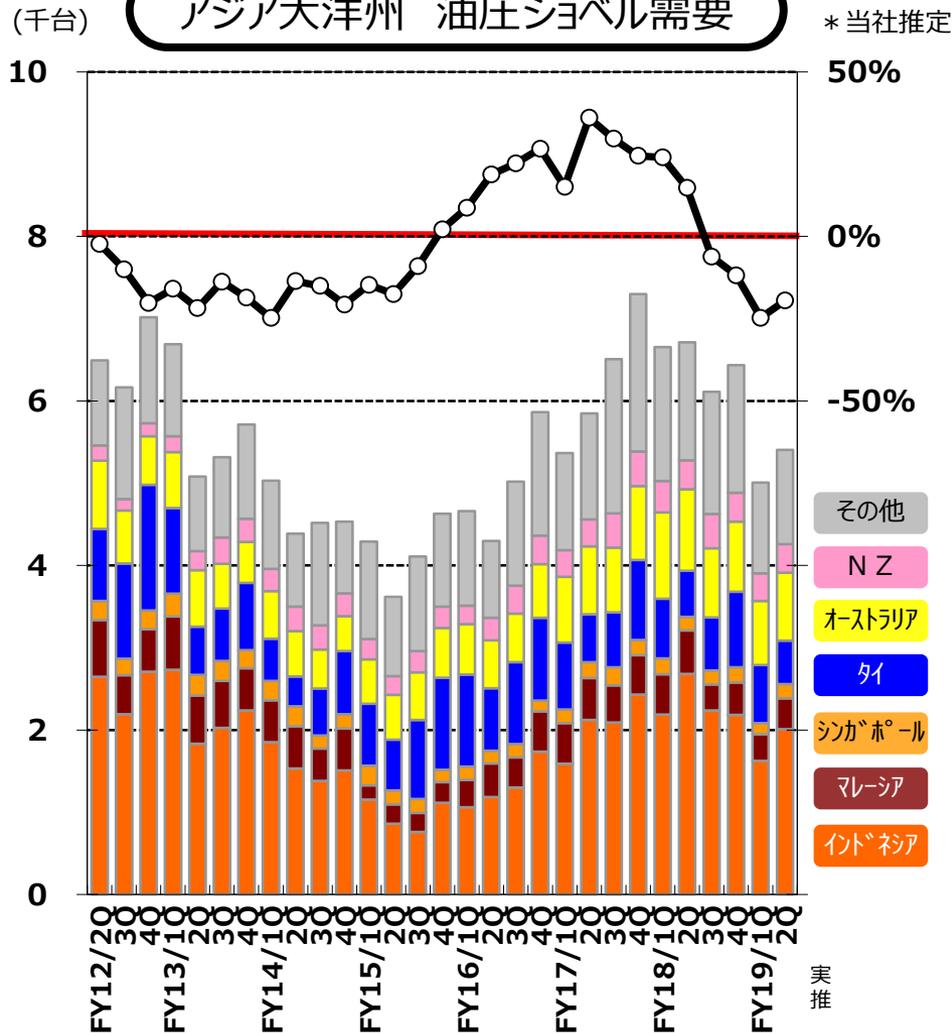
### ミニ・油圧ショベル クラス別需要構成比



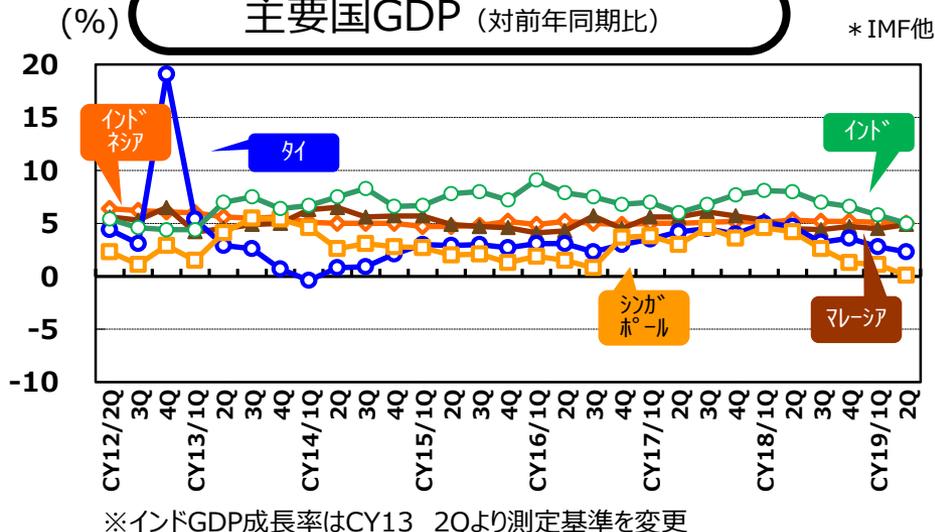


- アジア大洋州の油圧需要は全体では対前年同期19%減
- インドの油圧需要は対前年同期で29%減

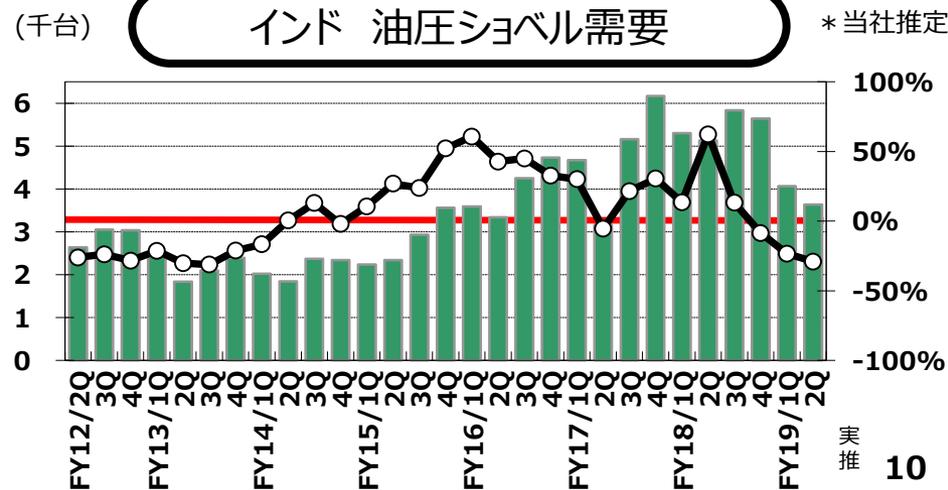
### アジア大洋州 油圧シヨベル需要



### 主要国GDP (対前年同期比)

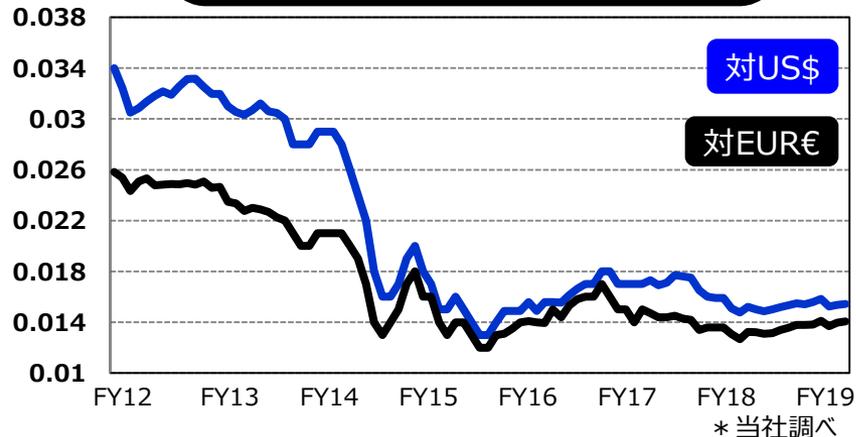


### インド 油圧シヨベル需要

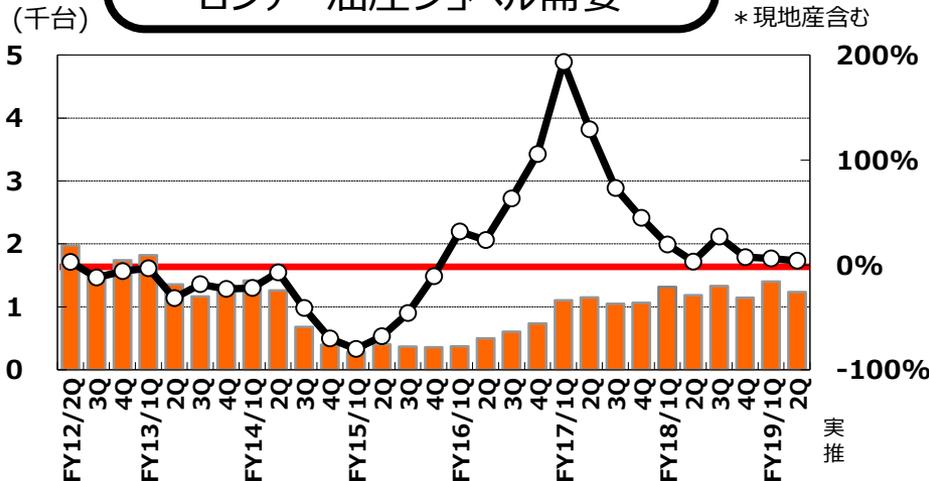


- ロシアの油圧需要は対前年同期で4%微増
- 中東の油圧需要は、トルコは引続き減少、湾岸地区では増加に転じている。

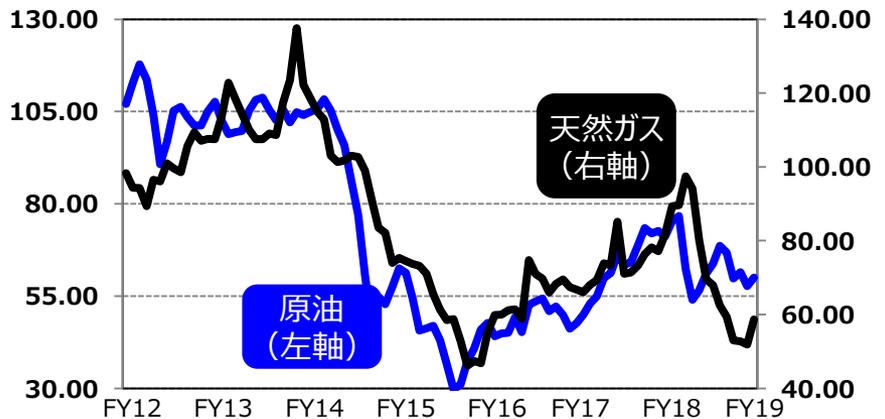
### ルーブル為替推移



### ロシア 油圧ショベル需要

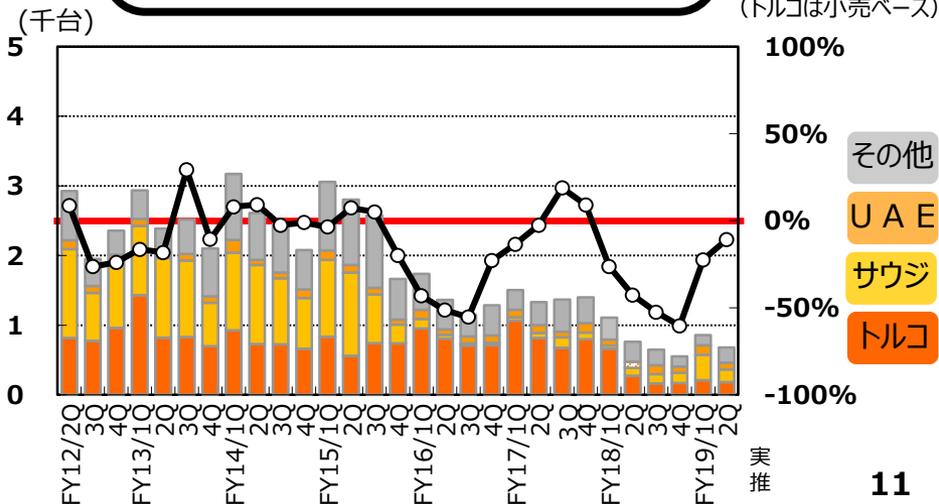


### 原油・天然ガス価格推移



\*世界銀行ホームページより当社作成 \*天然ガスIndex：2010年=100

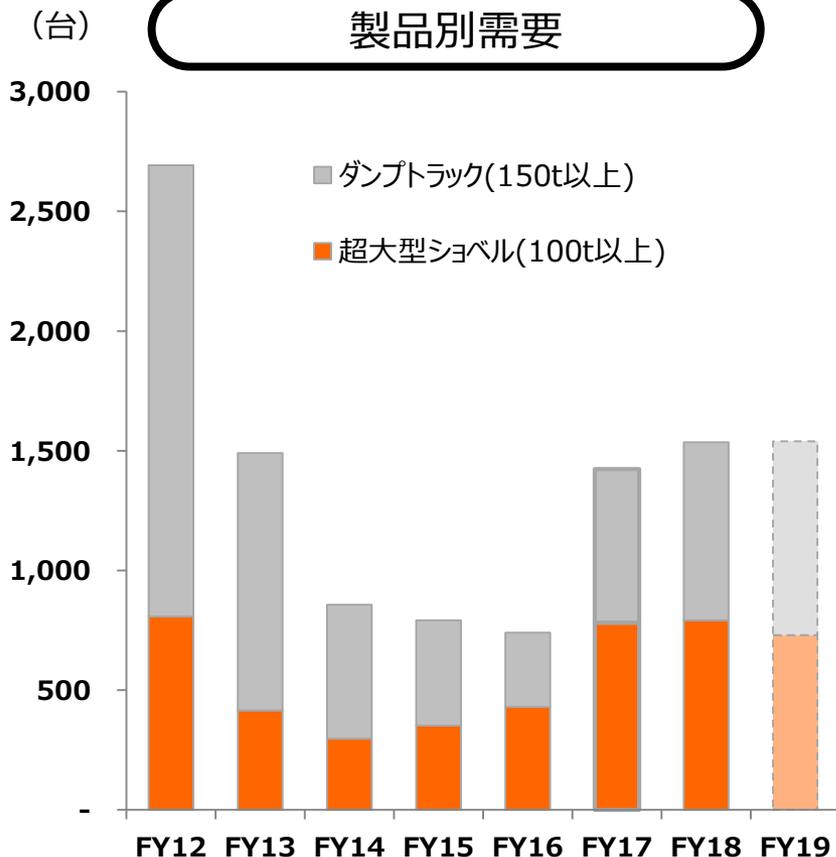
### 中東 油圧ショベル需要



- 19年度マイニング需要は大幅な増減なく、ほぼ横ばい
- クラス別では、中小規模鉱山・コントラクタ向け運転質量100-250tクラスの超大型油圧ショベルは減少、大手向け300t以上の超大型油圧ショベル及び積載質量150トン以上のダンプトラックの地合は強い

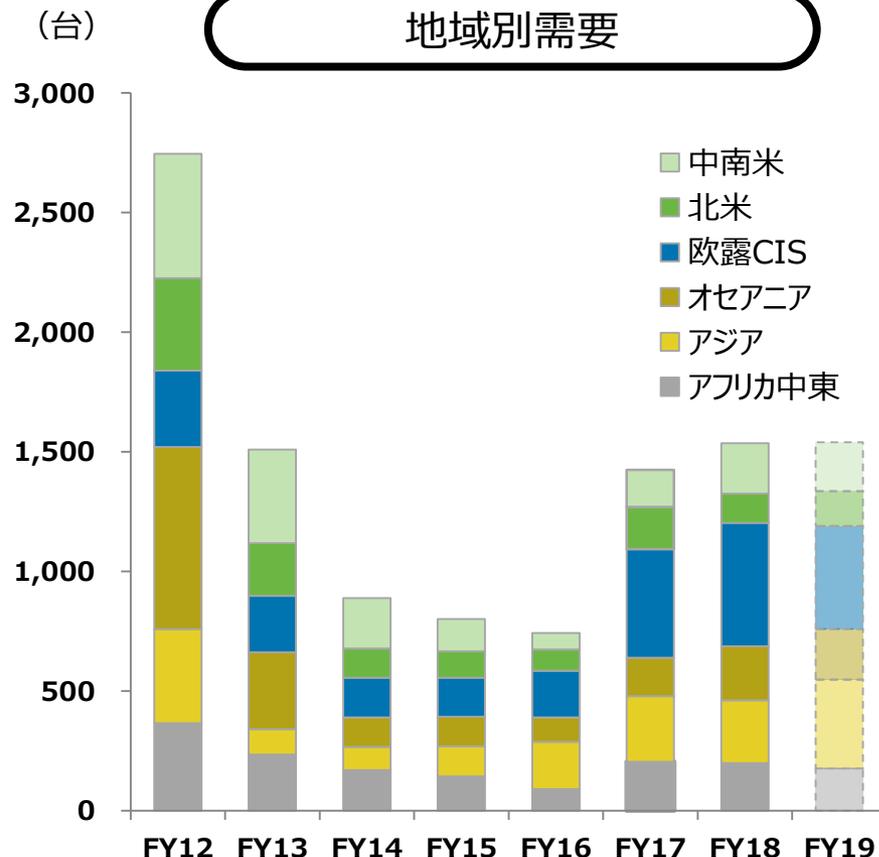
### 超大型ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)

製品別需要

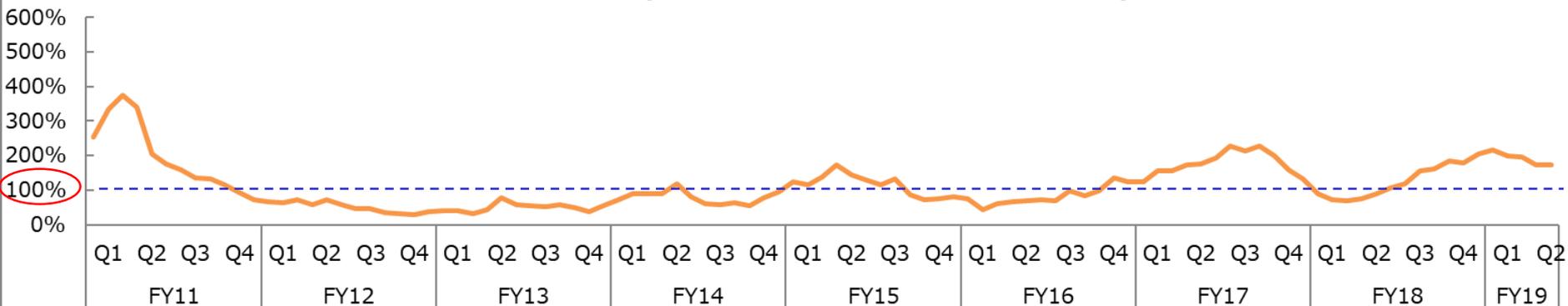


※当社調べ

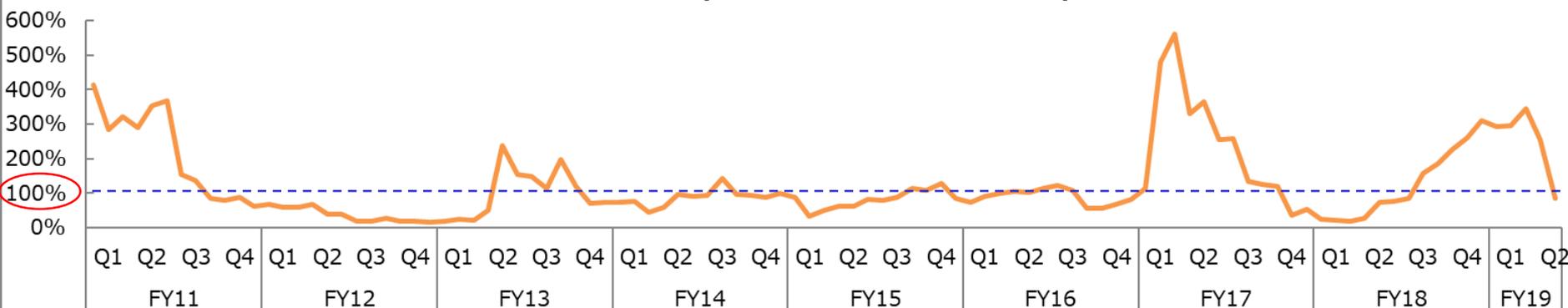
地域別需要



## BB Ratio(超大型油圧ショベル100t以上)



## BB Ratio(ダンプトラック150t以上)



⇒ダンプトラックの商談中大型案件がQ2までに最終契約に至らず、一時的にBBレシオ下降傾向も、下期に改善予定

※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)

当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

- 9月に一部出荷開始し、下期以降純正部品の協業を本格化予定
- 軽量化荷台で積載量が増加し、お客さまの課題である「生産性向上」に貢献
- 日立建機の設計・品質保証部門とブラッドケン社の技術陣の力を合わせて初の純正部品を開発。今後さらに協業を通じて連結ベースで事業を強化していく



リジッドダンプトラックEH5000AC-3



ブラッドケン社がオーストラリアのイプスウィッチ工場で製造した荷台。従来と比べて1割軽量化  
(2019年9月出荷開始)



## 24時間オイルモニタリングサービス「ConSite® OIL」を 9月から東南アジア、10月から中国でも順次提供開始

- ヨーロッパ、日本、豪州に続き、アジア全域で先進的なサービスを提供
- お客様の機械のマシンドアを未然に防ぎ、稼働率向上に寄与

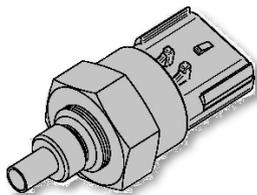
## 部品販売システム「ConSite® Parts Web Shop」をグローバル展開 9月から日本市場、10月から各国で順次展開

- 特長は同時交換部品の自動推奨
- 純正部品・サービスの提供機会を増やし、部品・サービス事業を強化

### 「ConSite® OIL」

#### 「故障予兆検知の強化」

- ・ OILセンサ
- ・ IoT、分析技術
- ・ AIの活用



「ConSite® OIL」センサ



部品・サービス  
事業を強化

### 「ConSite® Parts Web Shop」

#### 「Eコマース強化」



「ConSite® Parts Web Shop」画面イメージ

日立建機グループでは、持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

## 2. 2020年3月期第2四半期累計期間 決算の概要

執行役専務兼CFO

桂山 哲夫

為替円高影響などにより、売上収益は対前年同期2%減収、調整後営業利益は16%減益

(単位：億円)

	19年度 第2Q累計		18年度 第2Q累計		対前年同期 増減率
売上収益		4,806		4,904	△2%
調整後営業利益 *1	(9.4%)	450	(10.9%)	534	△16%
営業利益	(9.0%)	433	(10.3%)	505	△14%
税引前四半期利益	(8.6%)	411	(9.9%)	487	△16%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(5.2%)	252	(6.2%)	302	△17%
E B I T *2	(9.0%)	434	(10.2%)	499	△13%
為 替	アメリカドル	108.6		110.3	△1.8
	ユーロ	121.4		129.9	△8.4
	中国元	15.8		16.8	△1.1
	オーストラリアドル	75.2		82.0	△6.8
1株当たり配当金 *3		36円		43円	△7円

\*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

\*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

\*3 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%

程度、もしくはそれ以上をめざします。

日本、アジア、欧州、ロシアCIS、北米は対前年同期比増収なるも、為替円高影響により対前年同期比で減収

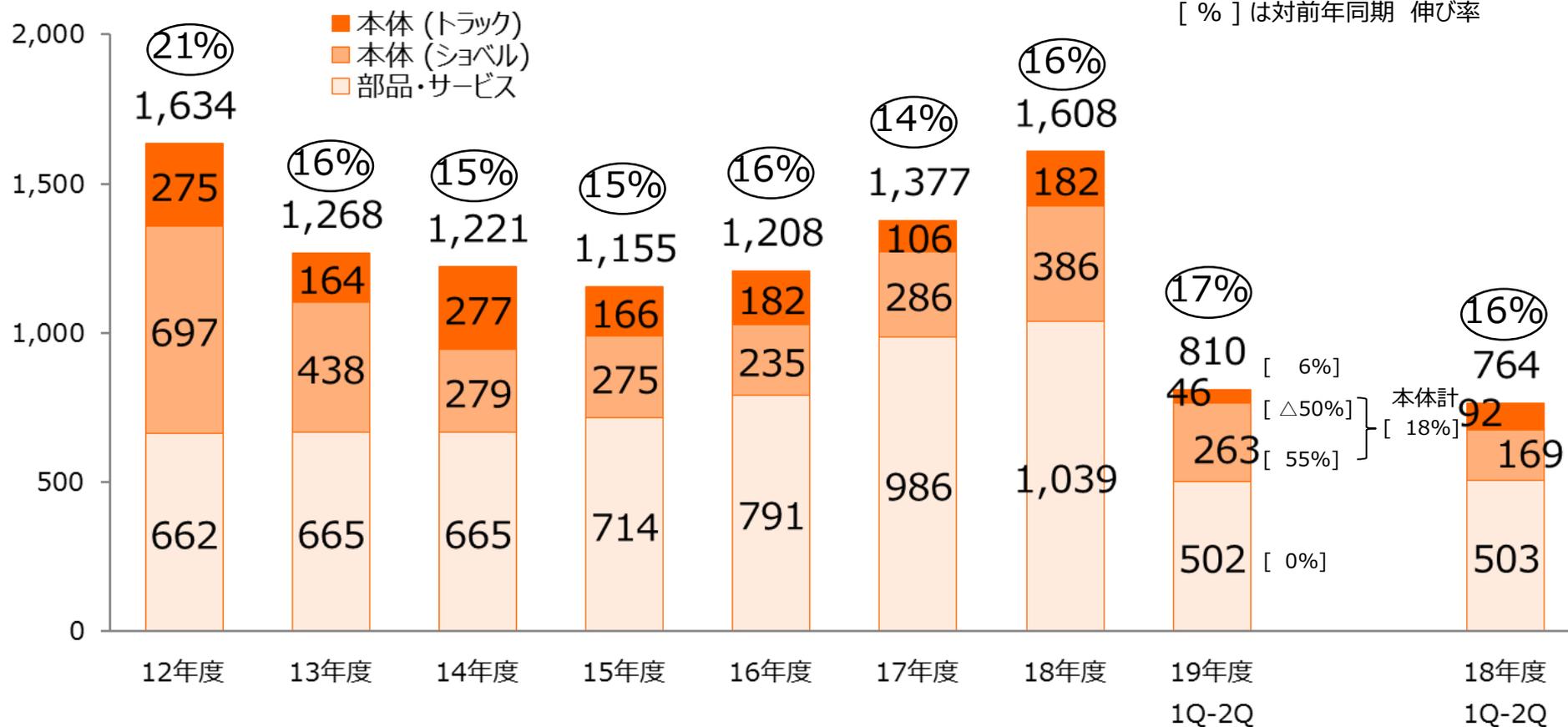
(単位：億円)

	19年度 第2Q累計		18年度 第2Q累計		対前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	999	21%	897	18%	102	11%
アジア	409	9%	396	8%	13	3%
インド	246	5%	319	7%	△ 73	△23%
オセアニア	763	16%	889	18%	△ 126	△14%
欧州	558	12%	533	11%	25	5%
北米	921	19%	793	16%	128	16%
中南米	72	2%	83	2%	△ 11	△13%
ロシアCIS	180	4%	150	3%	30	20%
中東	39	1%	79	2%	△ 41	△51%
アフリカ	188	4%	196	4%	△ 8	△4%
中国	431	9%	569	12%	△ 138	△24%
合計	4,806	100%	4,904	100%	△ 99	△2%
海外売上収益比率	79%		82%			

- 当第2四半期のマイニング売上収益は、対前年同期比6%増の810億円
- 特にマイニング機械本体売上収益は、対前年同期比18%の増加

(単位：億円)

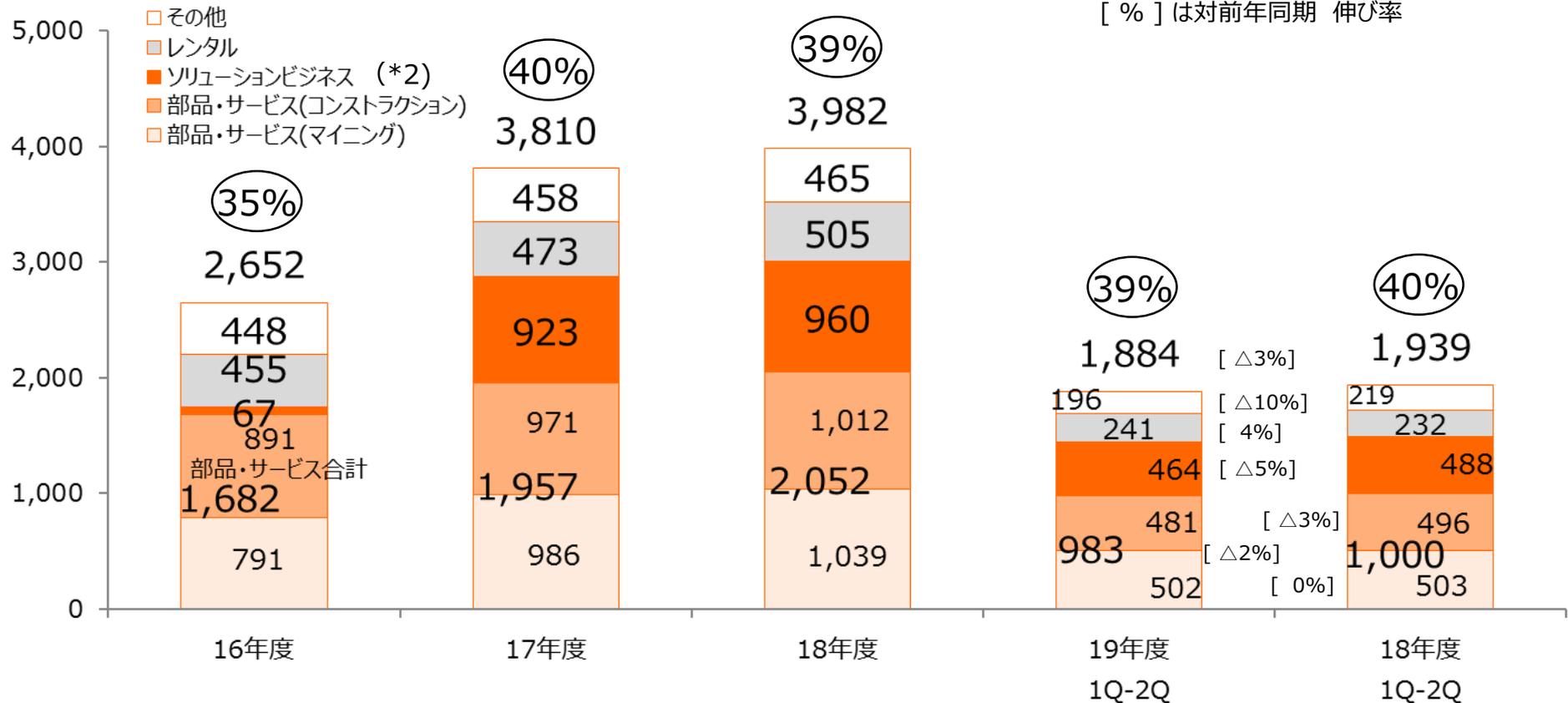
(注) (○) は全社売上収益に占める比率  
[ % ] は対前年同期 伸び率



当第2四半期のバリューチェーン売上収益は、為替円高影響（△89億円）により対前年同期比で3%減収の1,884億円

(単位：億円)

(注) ○% は全社売上収益に占める比率  
[ % ] は対前年同期 伸び率

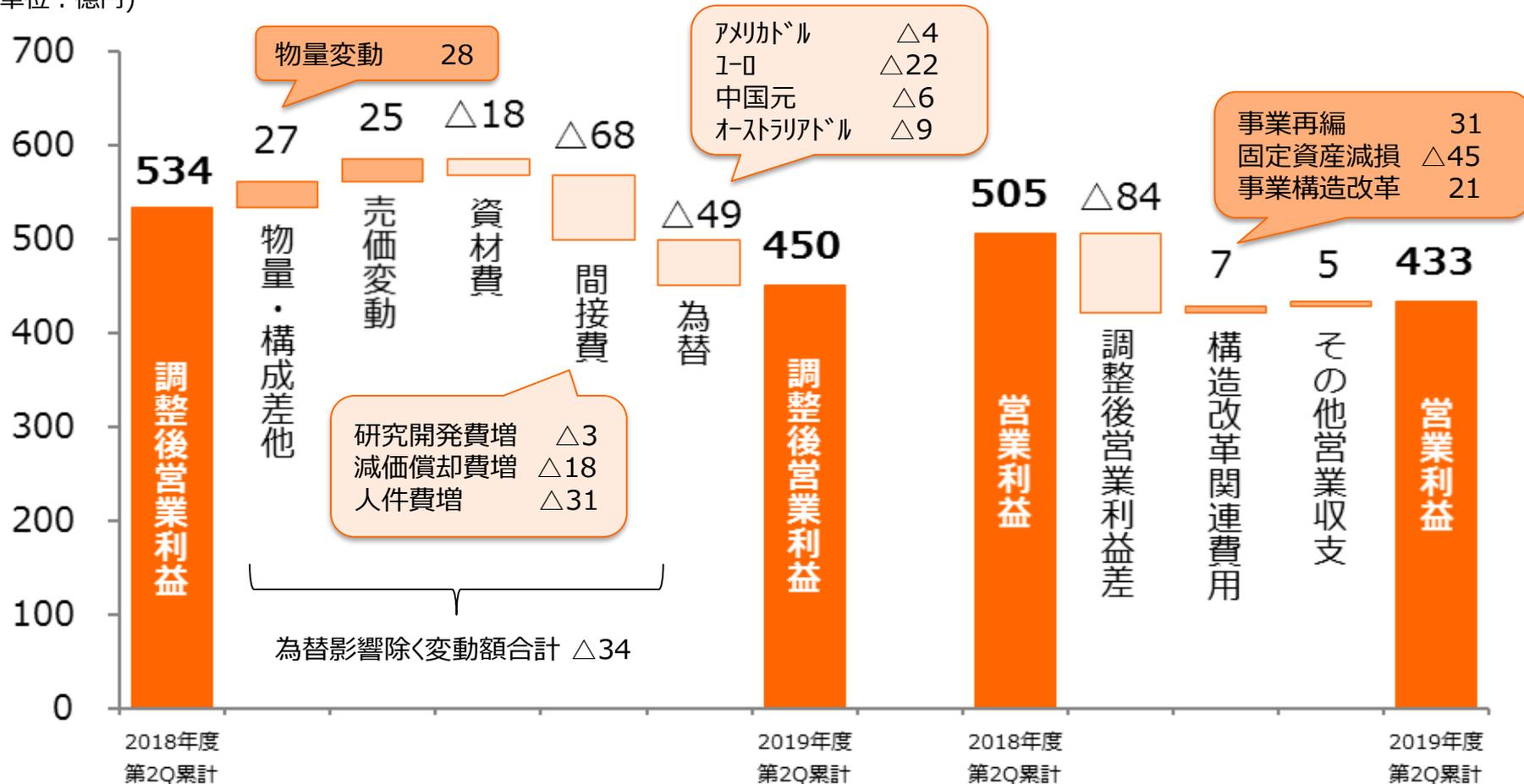


( \* 1 ) バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

( \* 2 ) ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

調整後営業利益は、物量・構成差による増加や売価の改善はあるも、資材費アップ、為替円高影響及び間接費の増加により、対前年同期で△84億円の減益

(単位：億円)



- 営業利益は433億円と対前年同期比△72億円(14%)の減益
- 親会社株主に帰属する四半期利益も252億円と対前年同期比△50億円(17%)の減益

(単位：億円)

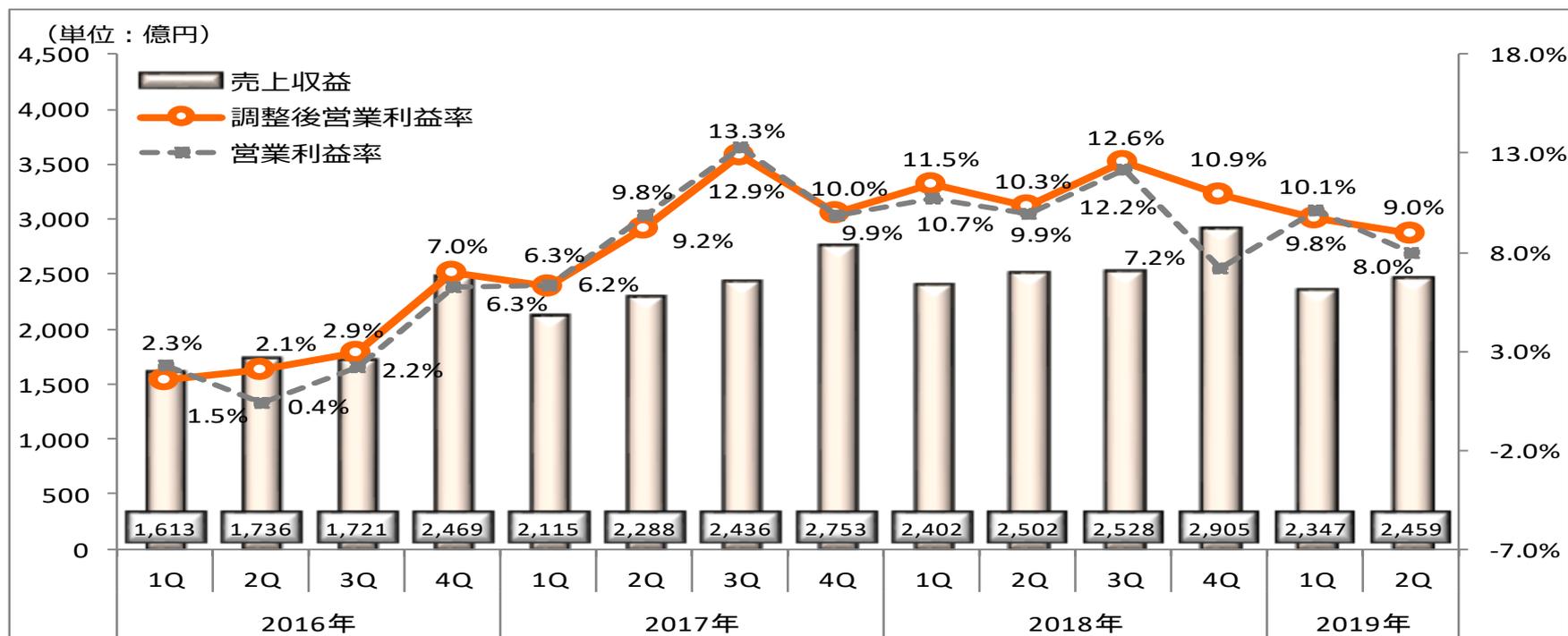
	19年度		18年度		対前年同期比	
	第2Q累計		第2Q累計		金額	増減率
売上収益		4,806		4,904	△99	△2%
売上原価	(72.2%)	3,470	(71.4%)	3,502	△32	△1%
販売費・管理費	(18.4%)	886	(17.7%)	868	18	2%
調整後営業利益 *1	(9.4%)	450	(10.9%)	534	△84	△16%
その他の収益及び費用		△17		△29	12	△42%
営業利益	(9.0%)	433	(10.3%)	505	△72	△14%
金融収益及び費用		△42		△35	△7	19%
持分法投資損益		20		17	3	17%
税引前四半期利益	(8.6%)	411	(9.9%)	487	△76	△16%
法人所得税費用		127		138	△11	△8%
四半期利益	(5.9%)	284	(7.1%)	349	△64	△18%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(5.2%)	252	(6.2%)	302	△50	△17%

\*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

# 要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

(単位:億円)

	2016年				2017年				2018年				2019年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上収益	1,613	1,736	1,721	2,469	2,115	2,288	2,436	2,753	2,402	2,502	2,528	2,905	2,347	2,459
調整後営業利益	24	36	50	173	132	210	315	275	276	258	318	317	229	221
営業利益	37	7	38	155	134	225	324	271	257	248	308	210	237	196



四半期別 為替レート	2016年				2017年				2018年				2019年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
アメリカドル	108.1	102.4	109.3	113.6	111.1	111.0	113.0	108.3	109.1	111.5	112.9	110.2	109.9	107.4
ユーロ	122.0	114.3	117.8	121.1	122.2	130.4	133.0	133.2	130.1	129.6	128.8	125.2	123.5	119.3
中国元	16.5	15.4	16.0	16.6	16.2	16.6	17.1	17.1	17.1	16.4	16.3	16.3	16.1	15.3
オーストラリアドル	80.6	77.6	81.9	86.2	83.4	87.6	86.8	85.3	82.6	81.5	81.1	78.5	76.9	73.6

当四半期末は、現預金並びに売掛債権の圧縮により、国際会計基準（IFRS）16号の適用開始によるリース資産の増加影響365億円あるも、総資産は前年度末より96億円の増加に留まる

(単位：億円)

	(A) 19年2Q	(B) 18年度末	(C) 18年2Q	(A)-(B) 増減		(D) 19年2Q	(E) 18年度末	(F) 18年2Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	583	673	630	△91	営業債務及びその他債務合計	2,101	2,781	2,567	△680
営業債権	2,187	2,382	2,141	△196	社債及び借入金	3,410	3,048	2,896	362
棚卸資産	3,283	3,248	3,030	35	負債の部合計	6,645	6,426	5,993	219
流動資産計	6,469	6,739	6,293	△270	(親会社所有者帰属持分比率)	(40.0%)	(41.0%)	(41.5%)	(-1.1%)
非流動資産合計	5,479	5,114	4,952	365	資本の部合計	5,303	5,427	5,253	△123
資産の部合計	11,948	11,853	11,246	96	負債・資本の部合計	11,948	11,853	11,246	96
非流動を含めた営業債権	2,612	2,826	2,542	△214					
棚卸資産 内訳						(28.5%)	(25.7%)	(25.8%)	(2.8%)
本体	932	893	795	39	有利子負債計	3,410	3,048	2,896	362
部品	1,049	1,022	1,002	27	現金及び現金同等物	583	673	630	△91
その他	1,303	1,333	1,233	△31	ネット有利子	(23.7%)	(20.0%)	(20.1%)	(3.6%)
棚卸資産計	3,283	3,248	3,030	35	負債	2,827	2,375	2,266	452
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)					
営業債権 (非流動含む)	93	100	92	△7	ネットD/エレシオ	0.59	0.49	0.49	0.10
棚卸資産	117	115	110	2					
営業債務	45	57	54	△12					
正味運転資金	163	155	144	8					

営業キャッシュ・フローは△97億円の支出超過なるも、対前年同期比では370億円の改善

(単位：億円)

	19年度 第2Q累計		18年度 第2Q累計		対前年同期比 増減額	
四半期利益		284		349		△ 64
減価償却費	500	216	527	179	△ 27	37
売掛金及び受取手形の増減		72		60		13
棚卸資産の増減	△ 344	△ 176	△ 760	△ 477	415	301
買掛金及び支払手形の増減		△ 241		△ 342		101
その他		△ 253		△ 235		△ 18
営業活動に関するキャッシュ・フロー		△ 97		△ 468		370
営業キャッシュ・フローマージン率		△2.0%		△9.5%		7.5%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 195		△ 113		△ 82
フリー・キャッシュ・フロー		△ 292		△ 580		288
財務活動に関するキャッシュ・フロー		228		404		△ 176

19年度連結業績予想は、先行きの経済状況や為替動向を鑑み、前回予想を据え置く

(単位：億円)

	19年度 予想			18年度 実績	対前年同期比	
					金額	増減率
売上収益	9,500			10,337	△ 837	△ 8%
	(9.1%)			(11.3%)	(△2.3%)	
調整後営業利益	860			1,168	△ 308	△ 26%
	(8.6%)			(9.9%)	(△1.3%)	
営業利益	820			1,023	△ 203	△ 20%
	(8.4%)			(9.9%)	(△1.5%)	
税引前当期利益	800			1,027	△ 227	△ 22%
親会社株主に帰属する 当期利益	480			685	△ 205	△ 30%
	(5.1%)			(6.6%)	(△1.6%)	
EBIT	835			1,056	△ 221	
通貨	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 予想	年度 予想	18年度 実績	対前年 同期比	
アメリカドル	108.6	100.0	104.1	111.0	△ 6.9	
ユーロ	121.4	110.0	115.5	127.9	△ 12.4	
中国元	15.8	14.5	15.1	16.6	△ 1.5	
オーストラリアドル	75.2	70.0	72.7	80.9	△ 8.3	
1株当たり配当金 *1	未定			100円	-	

為替感応度は  
参考資料1を  
ご参照ください

\*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

19年度連結売上収益は、予想為替レートの円高影響△660億円などにより、対前年同期比837億円の減収を見込む

(単位：億円)

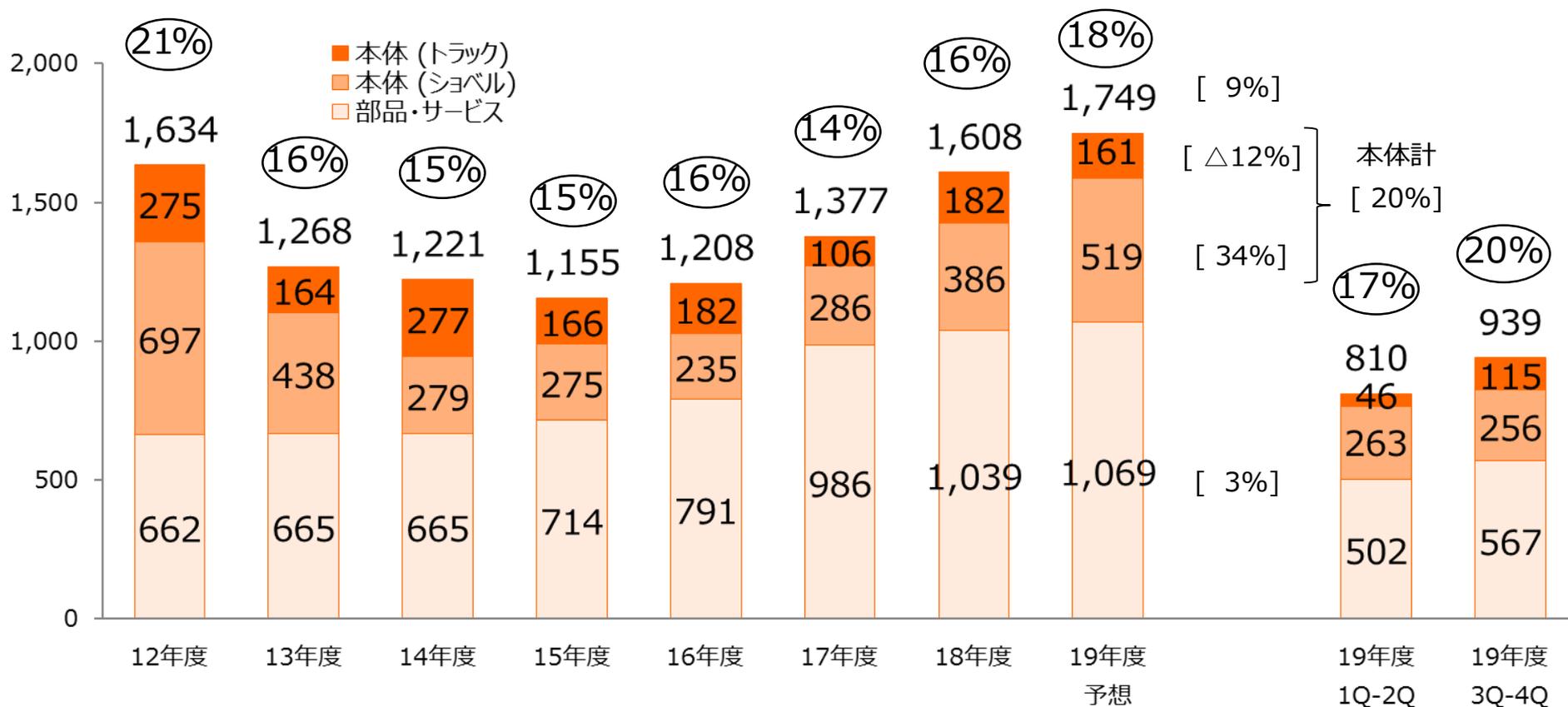
	19年度 予想		18年度 実績		対前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	2,117	22%	2,061	20%	56	3%
アジア	863	9%	885	9%	△22	△2%
インド	616	6%	679	7%	△64	△9%
オセアニア	1,489	16%	1,639	16%	△150	△9%
欧州	908	10%	1,116	11%	△209	△19%
北米	1,654	17%	1,687	16%	△33	△2%
中南米	143	2%	171	2%	△28	△16%
ロシアCIS	326	3%	344	3%	△18	△5%
中東	118	1%	118	1%	0	0%
アフリカ	331	3%	438	4%	△107	△25%
中国	937	10%	1,199	12%	△263	△22%
合計	9,500	100%	10,337	100%	△837	△8%
海外売上収益比率	78%		80%			

19年度のマイニング売上収益は、予想為替レートの円高影響あるも、対前年同期比9%増収の1,749億円を見込む

(単位：億円)

(注) (○) は全社売上収益に占める比率

[ % ] は対前年同期 伸び率

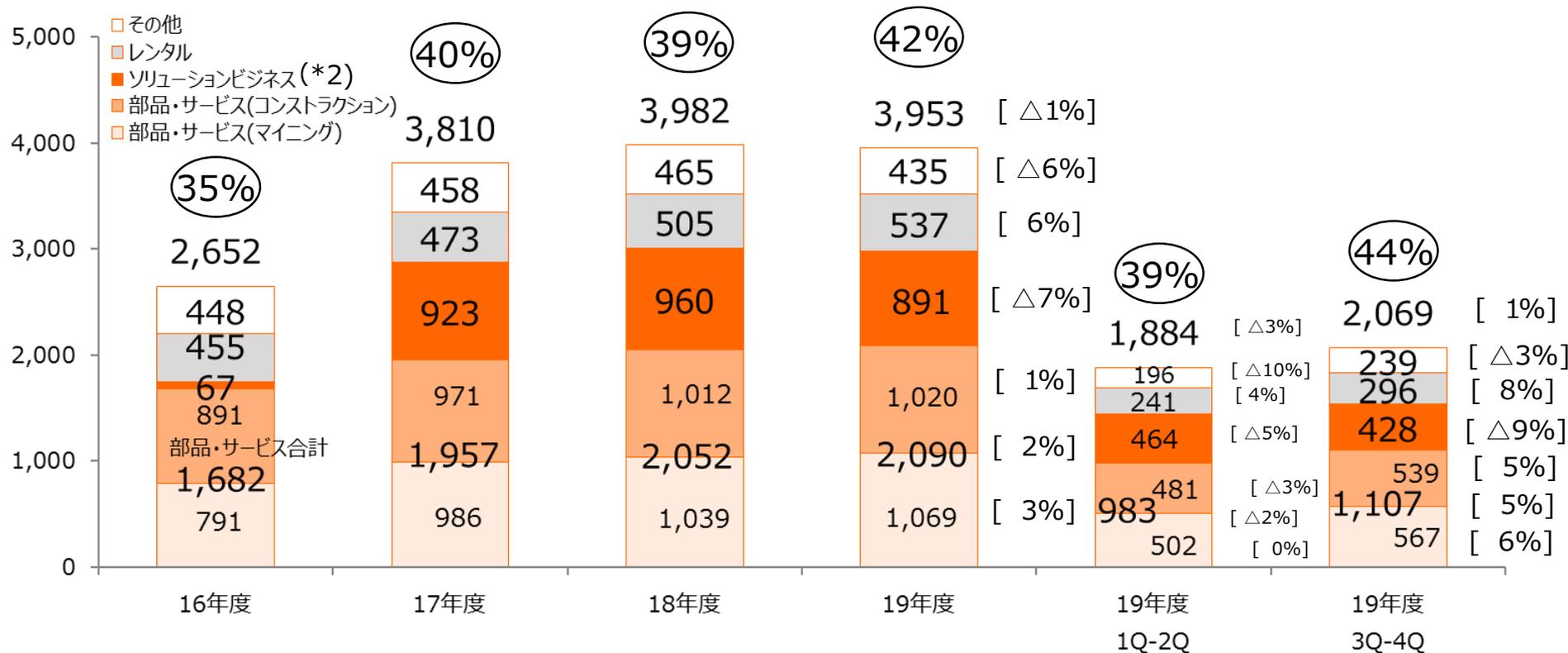


# バリューチェーン<sup>(\*1)</sup> 売上収益推移 (予想)

19年度売上収益は、部品サービス、レンタルの売上増あるも、予想為替レートの円高影響により、合計では対前年度比1%減収を見込む

(単位：億円)

(注) (○) は全社売上収益に占める比率  
[ % ] は対前年同期 伸び率



( \* 1 ) バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

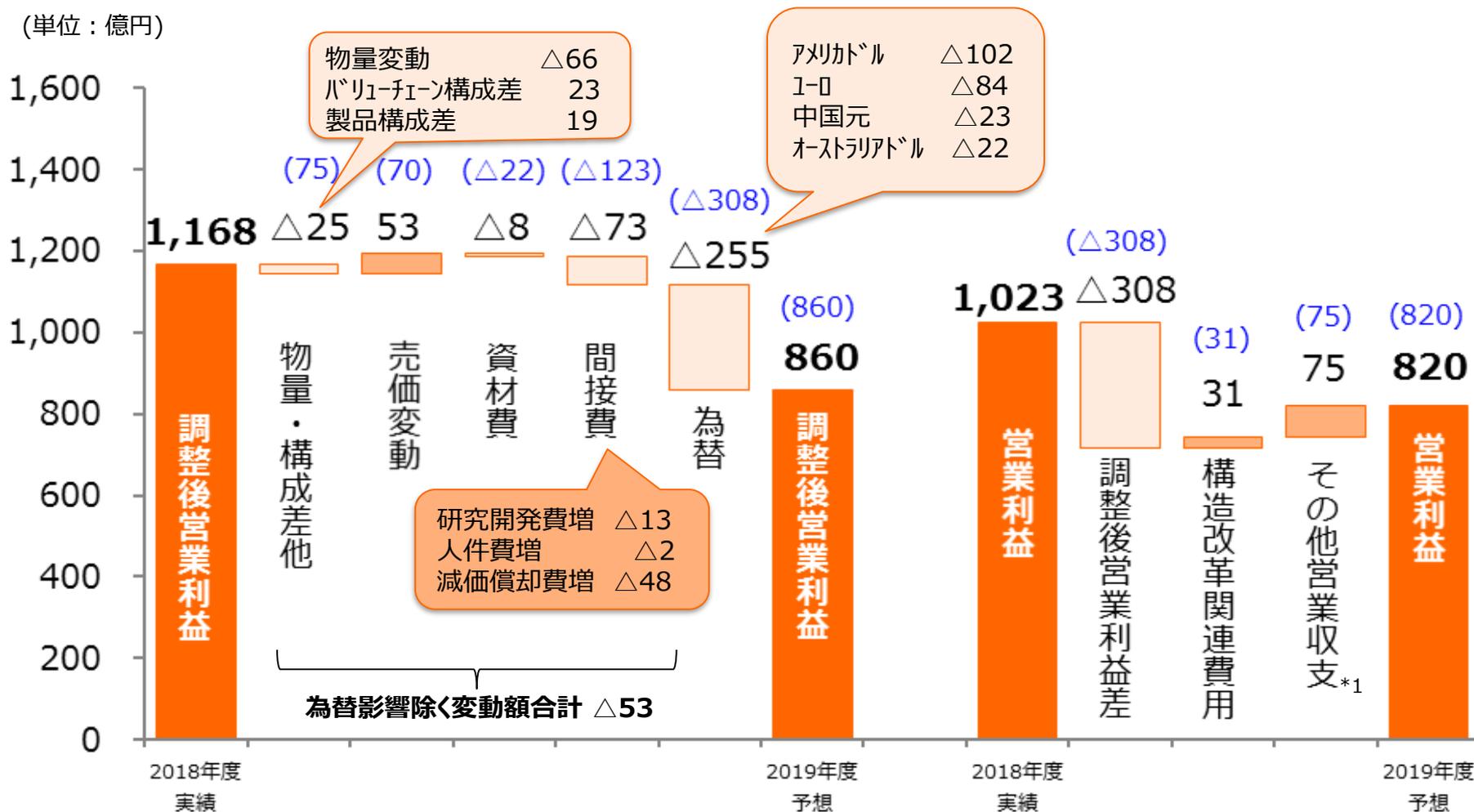
( \* 2 ) ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

# 連結損益変動要因（予想）

19年度調整後営業利益は、予想為替の円高影響、物量の減少、間接費増などによる減益影響はあるも、売価の改善などにより前回予想を据え置く

注.( )内は19年7月公表値

(単位：億円)



\*1 その他営業収支: 2018年度実績には中国での過年度過払い増値税の回収懸念についての処理額 $\Delta 88$ 億円を含む

19年度予想為替レートは、先行きが不透明な世界経済等を踏まえて、通貨毎に予想変動レンジの下限をもって設定。今回は中国元及びオーストラリアドルの予想為替レートを合理的に変更

## 為替レート及び為替感応度

(単位：億円)

通貨	為替レート				感応度(3Q-4Q累)		
	19年度			18年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	108.6	100.0	104.1	111.0	1円円安になった場合	11	9
ユーロ	121.4	110.0	115.5	127.9	1円円安になった場合	3	4
中国元	15.8	14.5	15.1	16.6	0.1円円安になった場合	3	1
オーストラリアドル	75.2	70.0	72.7	80.9	1円円安になった場合	10	1

# <参考資料 2> マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位：億円)

		18年度実績			19年度予想			差額		
		1-2Q累	3-4Q累	年度	1-2Q累	3-4Q累	年度	1-2Q累	3-4Q累	年度
米州	ショベル	64	81	146	67	108	176	3	27	30
	トラック	34	36	70	22	25	48	△ 12	△ 11	△ 23
	計	98	118	216	90	134	223	△ 9	16	7
欧阿中東	ショベル	117	130	248	118	141	259	1	11	12
	トラック	68	102	170	61	67	128	△ 7	△ 35	△ 42
	計	186	232	418	180	208	387	△ 6	△ 24	△ 30
アジア・大洋州	ショベル	291	347	638	401	398	799	110	51	161
	トラック	180	135	315	127	195	322	△ 53	60	7
	計	471	481	953	528	593	1,121	57	111	168
中国	ショベル	5	4	10	4	3	7	△ 1	△ 1	△ 2
	トラック	0	1	1	0	1	1	0	△ 0	△ 0
	計	6	5	11	4	4	9	△ 1	△ 1	△ 2
日本	ショベル	3	7	10	8	1	9	5	△ 6	△ 1
	トラック	0	0	0	0	0	0	△ 0	△ 0	△ 0
	計	3	7	10	8	1	9	5	△ 6	△ 1
合計	ショベル	482	569	1,051	599	651	1,250	118	82	200
	トラック	283	274	557	211	288	499	△ 72	14	△ 58
	計	764	843	1,608	810	939	1,749	46	96	141

■ 下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費を含む。  
19年度第2四半期累計実績5億円、19年度累計予想11億円

(単位：億円)

19年度 第2Q累計	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	4,342	475	△ 11	4,806
調整後営業利益	9.4% 409	8.7% 41	-	9.4% 450

(単位：億円)

19年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	8,609	891	0	9,500
調整後営業利益	8.9% 768	10.3% 92	-	9.1% 860

\*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

19年度設備投資は、国内工場の再編やバリューチェーン強化のための営業拠点整備など、高い水準を見込む

1.設備投資（工事ベース） (単位：億円)

	16年度	17年度	18年度	19年度 1-2Q累	19年度 3-4Q累	19年度
	実績	実績	実績	実績	見通し	見通し
設備投資	141	187	304	197	521	718
賃貸用営業資産	165	231	272	168	187	355
合計	307	418	576	366	708	1,073

2.減価償却費（有形・無形固定資産） (単位：億円)

	16年度	17年度	18年度	19年度 1-2Q累	19年度 3-4Q累	19年度
	実績	実績	実績	実績	見通し	見通し
設備投資	224	275	268	166	158	324
賃貸用営業資産	115	103	101	50	73	123
合計	340	378	370	216	232	448

3.研究開発費 (単位：億円)

	16年度	17年度	18年度	19年度 1-2Q累	19年度 3-4Q累	19年度
	実績	実績	実績	実績	見通し	見通し
グループ合計	193	246	248	124	137	261

## 【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

# END

## お問い合わせ

日立建機株式会社

ブランド・コミュニケーション本部

TEL : 03-5826-8152

FAX : 03-5826-8209

HITACHI  
Reliable solutions

「ほら、みて！」

昔のものから最新のものまで、建設機械が集まりました。全部、日立建機の建設機械です。私たちは初めて国産技術で機械式ショベルを開発・製造し、お客さまの期待に応えるために一丸となって技術を進化させてきました。油圧ショベル・ミニショベル・ホイールローダ・鉱山機械・道路機械…多種多様な機械は、今日も世界中で活躍しています！最後に豆知識をひとつ。建設機械の色は、メーカーごとに違うんです。例で、日立建機を探してみてください。

この色の建設機械を見かけたら、それは、日立建機です。

日立建機株式会社  
www.hitachi.com/global/jp/

■第58回ビジネス広告大賞 記事下広告部門 金賞を受賞  
(フジサンケイビジネスアイ主催 2019年10月)